

TOGIKAI

VOL.9

当選から1年
現在地とこれから

会員数
500人突破！



後援会(無料)の
ご登録はこちら

はじめての一般質問に登壇しました

2026年6月17日、東京都議会第二回定例会本会議において、当選後初めて一般質問に登壇いたしました。「頑張る人が報われる、頑張れない人が救われる東京へ」という理念のもと、13分間にわたり質問を行いました。東京都の財政力と実行力を生かし、全国に先駆けた政策を生み出すこと。東京だからこそできる挑戦を積み重ね、誰もが明日に希望を持てる都市を目指したい。その思いを込め、以下8項目について質問しました。



国と東京都の協議会について

国と東京都の協議会を、「東京対地方」という対立ではなく、日本全体の成長を議論する枠組みとして発展させるべきと提案。東京発の政策を全国展開し、再配分の効果検証も含めた建設的な議論を進めるよう求めた。知事は、国と都の戦略を整合させ、東京のポテンシャルを生かしながら、日本全体の持続的成長につなげるため協議会で議論を深める考えを示した。

東京アプリについて

640万件を超えるダウンロードを記録した東京アプリについて、ポイント配布にとどまらず、都民が日常的に使いやすくなるサービスへ進化させるよう提案。東京支援ナビや区市町村の支援情報を連携させ、一人ひとりに必要な情報が届く仕組みづくりを求めた。都はデジタル都民証や情報配信機能拡充し、データの共通利用を進める方針を示した。

東京都における若者政策について

生活や就労、住まい、孤立など、若者を取り巻く課題を横断的に捉える東京都独自の「若者政策」の枠組みを提案。少子化対策の前提として若者への投資を位置づけ、切れ目のない支援体制の構築を求めた。都は、関係局や区市町村、民間団体と連携しながら、若者のニーズを踏まえた支援の充実に取り組む考えを示した。

コロナ禍を踏まえた教育について

コロナ禍で失われた子どもたちの学びや経験を教訓として次の有事へ生かすべきと提案。教育機会の保障という観点から、公立学校での取組を質問した。教育長は、一人一台端末やオンライン学習、生成AIの活用など教育DXを推進し、災害時にも活用できる体制を整えていると答弁した。

内密出産について

児童虐待や乳児遺棄を防ぐ予防的福祉の観点から、「生まれてくるすべての命を社会が歓迎する」仕組みづくりを提案。検証結果を踏まえ、東京都独自の支援モデルの構築を求めた。都は、検証チームで母子の安全確保などを検証しており、統計情報を公表するとともに、国へ制度整備を要望していく考えを示した。

外国人材の定着について

外国人材を新たに受け入れるだけでなく、東京で働く人が地域社会の一員として長く活躍できる環境整備を提案。職場定着支援や日本語教育、地域との共生を推進するよう求めた。都は、企業への伴走支援や日本語教育の充実などを通じ、共生社会の実現を目指す考えを示した。

持続可能な都市農業について

都市農業を将来へ引き継ぐため、経営支援に加え、成功事例の共有や新たな販路開拓を後押しするよう提案。農業者が将来に希望を持って営農を続けられる環境づくりを求めた。都は、ブランド化や加工品開発、クラウドファンディングなど先進事例を発信し、経営力強化を支援していく考えを示した。

重度心身障がい児者への支援について

どれだけ障害が重くても住み慣れた地域で暮らせる社会の実現に向け、医療的ケアを必要とする方への切れ目のない支援体制を提案。特に成人期の制度充実を要望した。都は、通所施設や短期入所の整備を進めるとともに、次期計画の策定に当たり、当事者や自治体の意見を踏まえて施策を検討すると答弁した。



note・HPにて
質問と答弁の
全文掲載中！



はなまゐる 都政報告



6月には東京都議会第二回定例会が開会・閉会し、令和8年度一般会計補正予算が成立しました。今回の補正予算は総額542億円規模となり、物価高騰対策や医療・福祉、中小企業支援など、喫緊の課題に対応するための事業が盛り込まれました。私たち国民民主党東京都議団が求めてきた中小企業への資金繰り支援なども反映された一方、地域の事業者からは支援の規模や対象についてさらなる充実を求める声も寄せられています。今後も予算が現場で十分な効果を発揮しているかを注視し、必要な見直しや追加支援について提案を続けてまいります。

また、今回の定例会では、当選後初めて本会議で一般質問に登壇しました。委員会で取り上げてきた福祉・医療分野に加え、デジタル行政、教育、若者政策、都市農業、外国人材など、都政全体を俯瞰した8つのテーマについて質問を行いました。

知事や教育長をはじめ執行機関と直接議論する本会議での質問は、委員会とは異なる責任と重みがあり、自らの政策を都政全体へ提案する貴重な機会となりました。質問の詳細については前ページでご紹介しています。

議会閉会後も、会派では政策勉強会や各分野のヒアリングを重ね、8月から本格化する各種団体からの予算要望への対応に向けた準備を進めています。また、7月からは地域の夏祭りや行事も本格的に始まり、多くの皆様と直接お話しする機会をいただいています。

国民民主党では、20～30代の国会議員・地方議員が参加する「未来先取りチーム」が発足し、メンバーの一人として議論に参加しています。結党から6年を迎える節目に、若い世代の視点からこれからの国家像や社会のあり方について提言をまとめることを目的とした取り組みです。党の結党理念を大切にしながら、多様な価値観を尊重し、事実に基づく熟議を重ねることで、この国の未来につながる政策提言を行ってまいります。

議会日程の比較的落ち着いたこの時期だからこそ、公務・党務・政務、そして地元活動の一つひとつを丁寧に積み重ね、秋の第三回定例会へつなげていきたいと考えています。7月23日には、東京都議会議員として任期2年目を迎えます。当選からの1年間、多くの方々に支えていただきながら、一步步活動を積み重ねてまいりました。初心を忘れることなく、現場の声を都政へ届け、一つでも多くの課題を前へ進められるよう、引き続き全力で取り組んでまいります。



6月お休みしてしまい、 申し訳ありません。

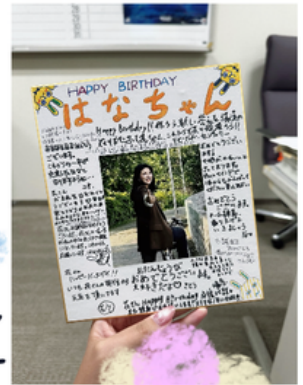
6月3日で29歳になりました。

もうあんまり若くないですね。体調を崩しながら迎えた1周年。まだまだ未熟ながら、意味のある仕事ができているなという実感を積めるようになってきました。練馬は夏の収穫の季節、夏祭りも沢山やってきます。第2定例会では当選後初の一般質問に立たせて頂き、昨年の決算委員会同様、都政全般について網羅的に見直し、考え直す貴重な機会となりました。



さて、任期から1年、2回目の夏のはじめは、実は可成りゆるくさせて頂いていま。公務、地元日程以外のリリースをなるべく自分自身を見つめ直すことに充てた1か月でした。"見つめ直す"という行為は見る向きが異なるニュアンスに聞こえてしまいかもしれませんが、どちらかというと

他人軸にのってしまっていた自分の判断軸や、これまでやってきたこと、やりかた、やるべきこと、大事にしたいものと毎朝やるべきものの等々一度棚下ろしして、フラットなマインドセットをするために時間を費しました。私は頑張っているし、私以外の人も頑張っている。でもその視線の先にはいつも都民や社会があるべきで、逆に言えばそれ以外のノイズに過度に左右される必要はない。距離を置かなくてもいいのかもしれない。泳ぎが難しいんですが、大事にやるべきものを明確に、(仲間を増やしていきたいです)。



当選から1年、党の結党から6年。毎日が「おかげさまで」「ありがとう」(仕事で返せるよう、頑張ります〜等)

